

# 中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成29年 1月～ 3月実績

平成29年 4月～ 6月見通し

福井県商工会連合会



## I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 平成29年1～3月期実績及び平成29年4～6月期見通し
7. 調査時点 平成29年3月1日（水）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

### 9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

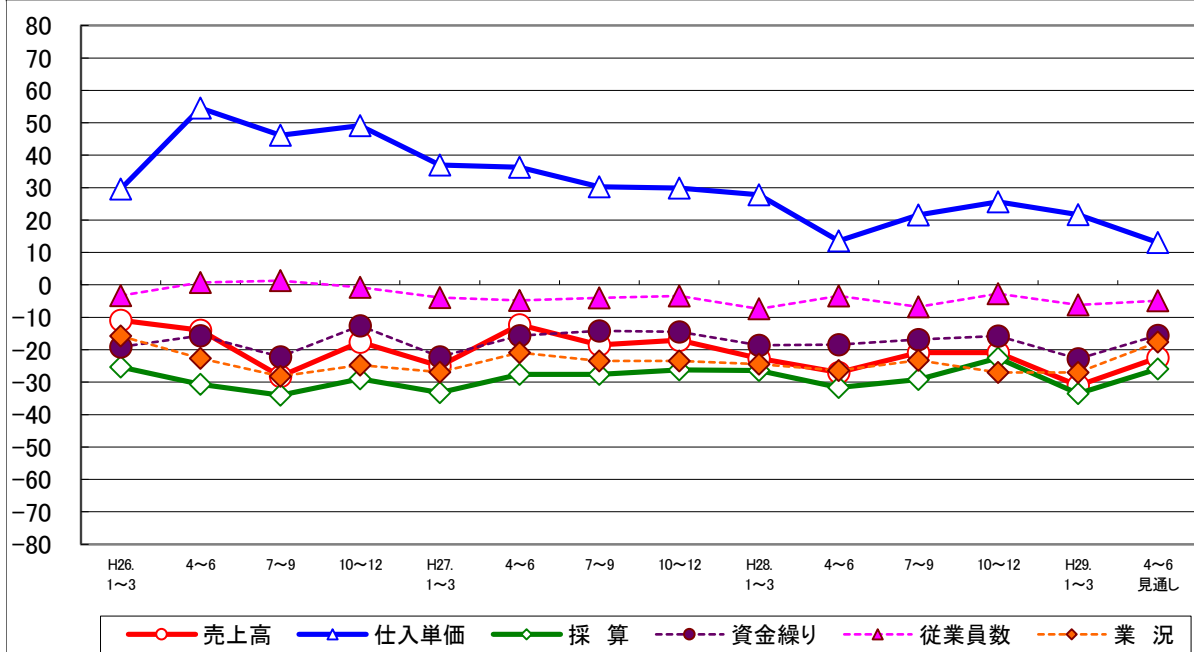
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

### 10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保勝氏

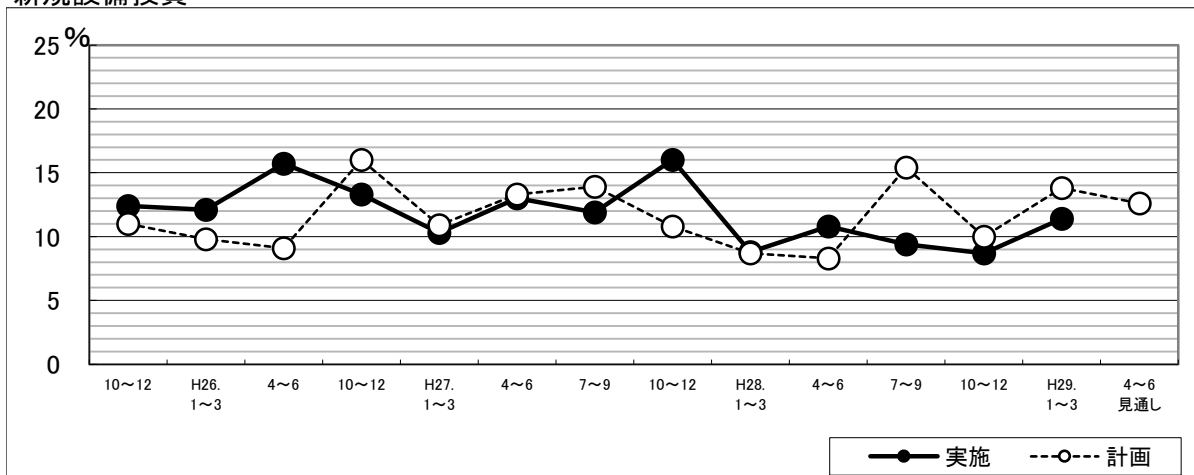
## 全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

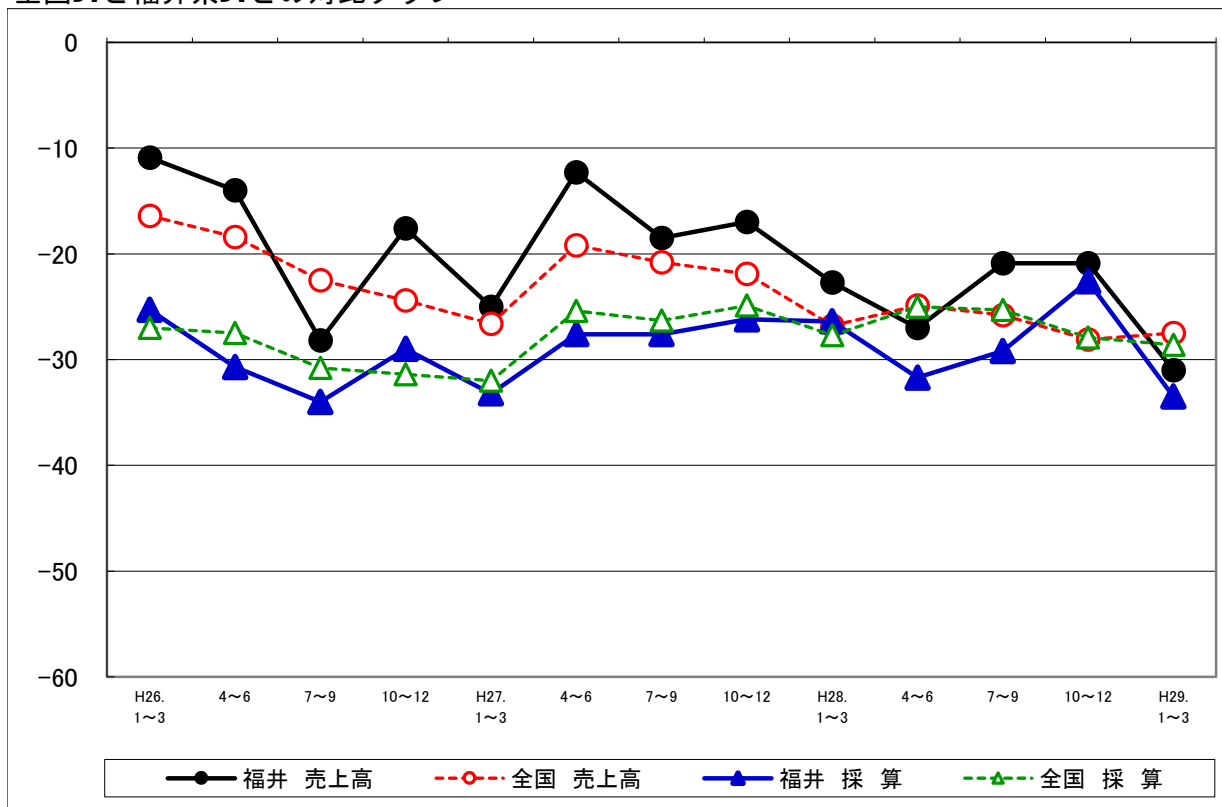
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H26.1~3	▲ 10.9	29.6	▲ 25.3	▲ 19.1	▲ 3.3	▲ 15.8
4~6	▲ 14.0	54.6	▲ 30.7	▲ 15.7	0.7	▲ 22.7
7~9	▲ 28.2	46.2	▲ 34.0	▲ 22.2	1.3	▲ 28.2
10~12	▲ 17.6	49.1	▲ 29.0	▲ 12.6	▲ 0.7	▲ 24.7
H27.1~3	▲ 25.0	37.0	▲ 33.2	▲ 22.2	▲ 3.9	▲ 26.9
4~6	▲ 12.3	36.3	▲ 27.6	▲ 15.7	▲ 4.8	▲ 20.9
7~9	▲ 18.5	30.3	▲ 27.6	▲ 14.2	▲ 4.0	▲ 23.5
10~12	▲ 17.0	29.9	▲ 26.2	▲ 14.5	▲ 3.4	▲ 23.5
H28.1~3	▲ 22.7	27.8	▲ 26.4	▲ 18.6	▲ 7.4	▲ 24.4
4~6	▲ 27.0	13.6	▲ 31.7	▲ 18.4	▲ 3.4	▲ 26.4
7~9	▲ 20.9	21.6	▲ 29.2	▲ 16.8	▲ 6.8	▲ 23.3
10~12	▲ 20.9	25.6	▲ 22.6	▲ 15.8	▲ 2.7	▲ 27.0
H29.1~3	▲ 31.1	21.7	▲ 33.5	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 27.0
4~6見通し	▲ 22.5	13.1	▲ 25.9	▲ 15.6	▲ 4.9	▲ 17.6



## 新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成29年1-3月期の福井県経済を概観すると、需要面では、飲食料品、身の回り品など生活必需品を中心に堅調な動きを維持した。また、供給面でも、企業の生産活動で主力の電子部品・デバイスがゆるやかに持ち直しているほか、輸送機械も好調な生産を持続し、化学も品目によるバラつきはあるものの、概ね堅調な生産動向を維持。また、地場産業では、繊維工業が衣料分野の不冴えなどから停滞感がみられたものの、眼鏡枠工業はOEM中心に持ち直しの動きを強めた。以上を総括すれば、同期の県内経済は個人消費が所得環境の改善を背景に持ち直しの動きとなったほか、生産活動も一部に格差を伴いつつも、主力産業中心に概ね堅調に推移するなど、全体としては緩やかな回復基調を維持した。

ただ、今期（H29年1-3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち仕入単価（逆指数）（前期25.6→今期21.7）で改善したほか、業況（前期▲27.0→今期▲27.0）が横ばいとなったほかは、売上高（前期▲20.9→今期▲31.1）、採算（前期▲22.6→今期▲33.5）、資金繰り（前期▲15.8→今期▲22.8）、従業員数（前期▲2.7→今期▲6.2）の4項目で悪化傾向となっている。こうした状況から、県内中小企業の景況感はいまだ予断を許さない状況にあることがうかがえる。

また、先行き（H29年4-6月期）については、仕入単価（逆指数）を除く5項目で改善予測となっており、景況感は幾分緩和へと向かうことが期待される。

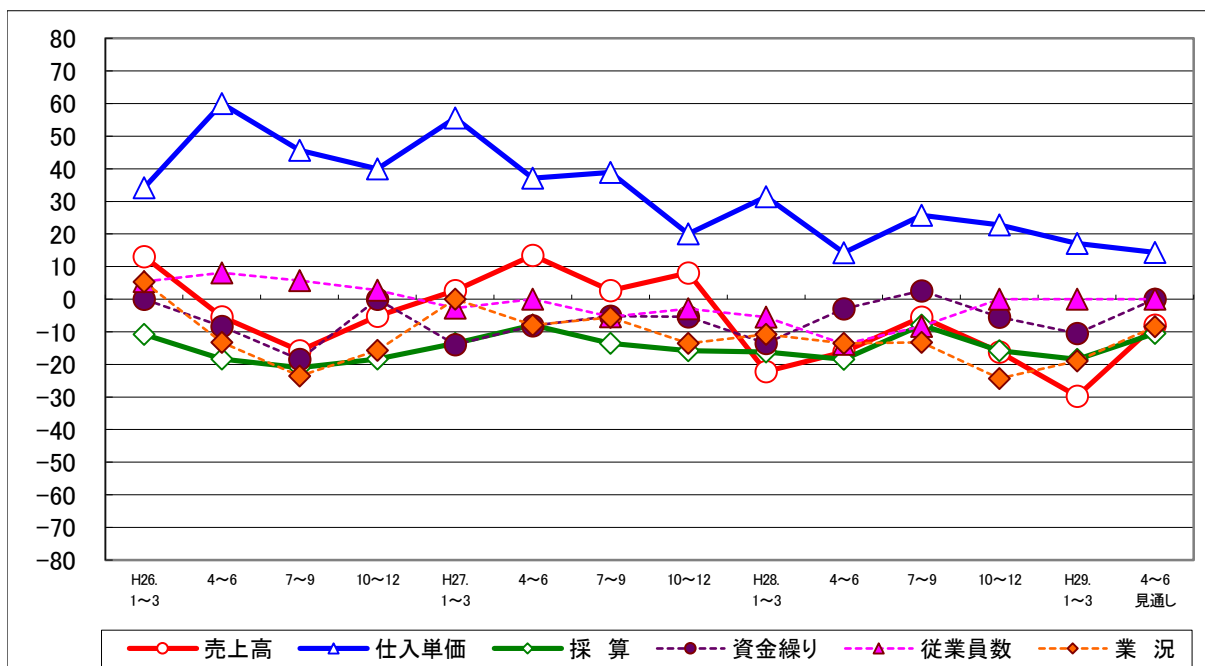
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、売上高、採算ともに全国水準より悪化しており、福井県の景況感は回復基調とはいえ全国に比べやや劣ることがうかがえる。

そのほか、今期の新規設備投資については、計画の13.8%に対して実施が11.4%となり、投資意欲がやや停滞気味となった。しかし、先行き（H29年4-6月期）については、何らかの投資を計画している企業が12.6%みられ、投資マインドは横ばいか幾分上向くことが予想される。

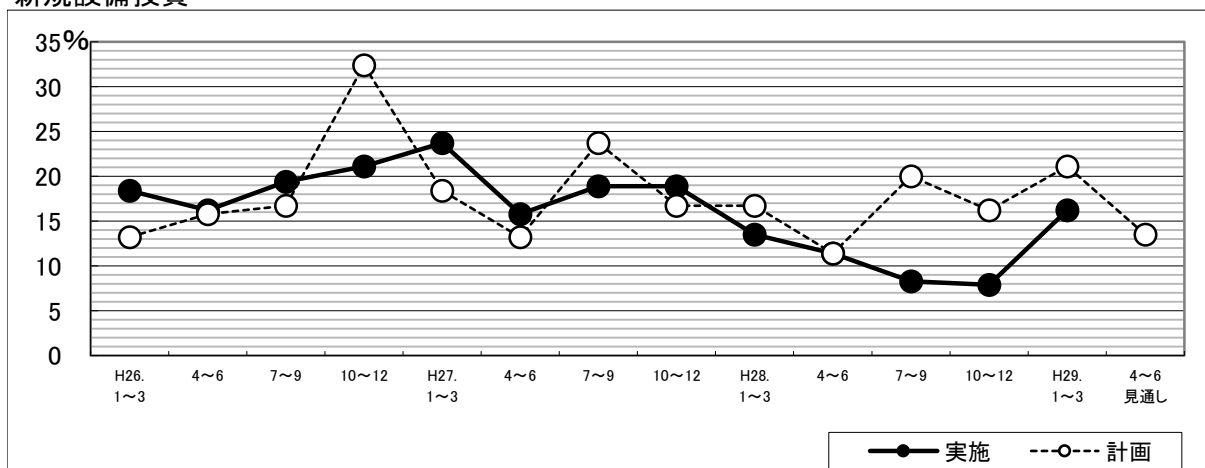
## 製造業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

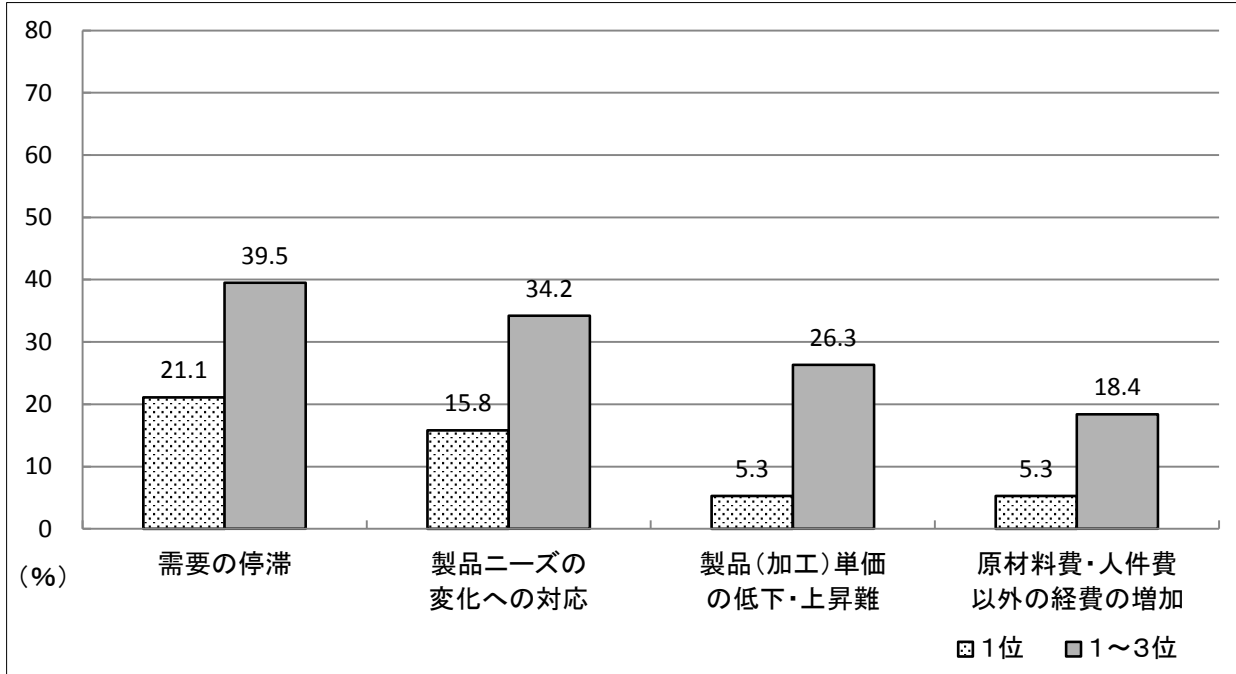
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H26.1~3	13.1	34.2	▲ 10.8	0.0	5.4	5.3
4~6	▲ 5.4	60.0	▲ 18.4	▲ 8.3	8.1	▲ 13.2
7~9	▲ 15.8	45.7	▲ 21.0	▲ 18.5	5.7	▲ 23.6
10~12	▲ 5.2	40.0	▲ 18.4	0.0	2.8	▲ 15.7
H27.1~3	2.7	55.6	▲ 13.5	▲ 13.9	▲ 2.7	0.0
4~6	13.5	37.1	▲ 7.9	▲ 8.1	0.0	▲ 7.9
7~9	2.7	38.9	▲ 13.5	▲ 5.2	▲ 5.4	▲ 5.6
10~12	8.1	20.0	▲ 15.8	▲ 5.4	▲ 2.9	▲ 13.5
H28.1~3	▲ 22.2	31.4	▲ 16.2	▲ 13.5	▲ 5.5	▲ 10.8
4~6	▲ 16.2	14.2	▲ 18.5	▲ 2.9	▲ 13.8	▲ 13.5
7~9	▲ 5.5	25.7	▲ 7.9	2.6	▲ 8.3	▲ 13.2
10~12	▲ 16.2	22.8	▲ 15.8	▲ 5.5	0.0	▲ 24.3
H29.1~3	▲ 29.7	17.1	▲ 18.5	▲ 10.5	0.0	▲ 18.9
4~6見通し	▲ 7.9	14.3	▲ 10.5	0.0	0.0	▲ 8.4



## 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・商談の件数と見積、引合いの件数が減少している。例年の北陸の冬期の停滞が理由と思われる。
- ・現況は悪いが、今後の国産商品や新製品に期待が持てるので3月以降は売上が伸びると見ている。都市部の問屋さんの引合いが多い。

## 製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維工業は非衣料向けが持ち直しつつあるものの、衣料向けが弱い動きとなっていることから全体では弱含んでいる。しかし、眼鏡工業は国内向けが横ばいながら海外からのOEM受注が持ち直していることなどから全体では緩やかに回復。一方、機械工業は電子部品・デバイスで一時期伸びに鈍化がみられたスマートフォン向けが持ち直し、自動車変速装置部品なども回復基調が続いていることから、全体では緩やかに持ち直している。化学・プラスチック工業などでも、医薬品や合成樹脂等の化学製品が持ち直しつつあるほか、プラスチック製品も産業資材が横ばいとなっているが、建築資材などが持ち直していることから、全体では持ち直している。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、売上高、採算、資金繰りの3項目で悪化傾向を示している。ちなみに、各項目の動きをみると、売上高が前期▲16.2→今期▲29.7へ、仕入単価（逆指標）が前期22.8→今期17.1へ、採算が前期▲15.8→▲18.5へ、資金繰りが前期▲5.5→今期▲10.5へ、従業員数が前期0.0→今期0.0へ、業況が前期▲24.3→今期▲18.9へと変化している。こうした状況から、本県の中小製造業では、慢性の人手不足はあるものの、売上高の低下から採算、資金繰りが悪化するも仕入単価の低下などから業況は何とか改善を維持していることがうかがえる。

また、先行き（H29年4～6月期）については、従業員の横ばいを除き、その他5項目は改善予測となっている。

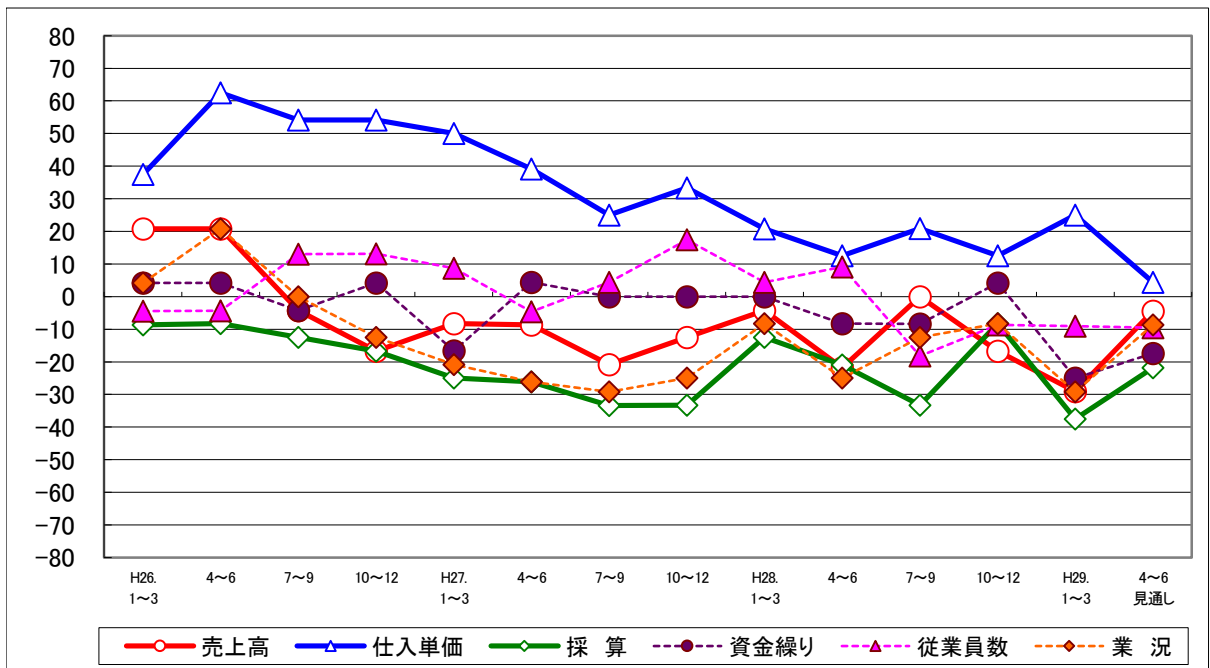
一方、新規設備投資の実施状況については、計画の21.1%に対し実施が16.2%とやや精彩を欠く結果となったほか、先行き（H29年4～6月期）についても投資予定企業が13.5%にとどまり、やや低調なものとなっている。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」（1位に挙げた企業21.1%、1位～3位までに挙げた企業39.5%）への指摘が最多となったほか、「製品ニーズの変化への対応」（1位に挙げた企業15.8%、1位～3位までに挙げた企業34.2%）への指定も比較的多い。そのほか、「商談の件数と見積もり、引き合いが減少している」といった後ろ向きな声もある反面、「今後の国産需要に加え新製品の開発に期待する」などの前向きな声も目立った。

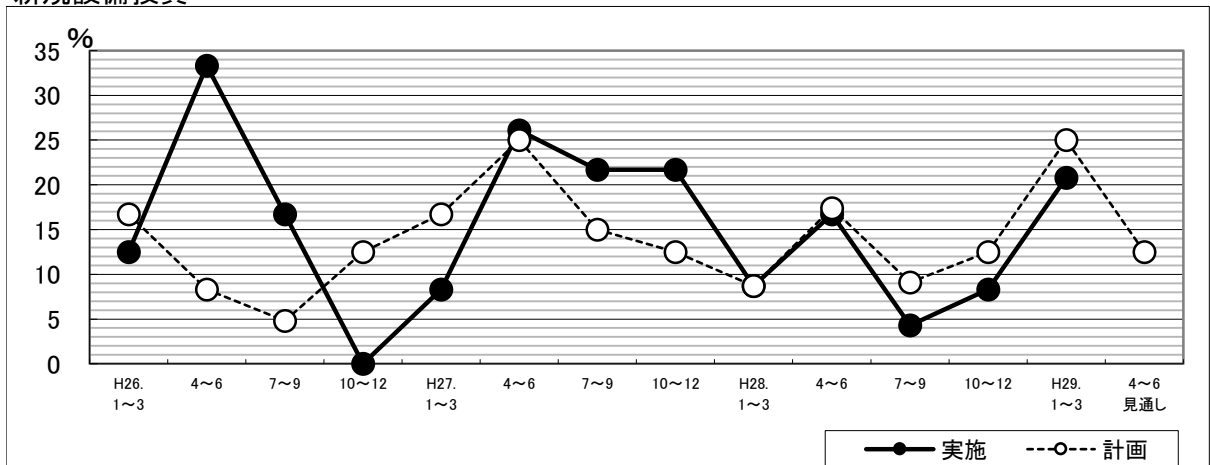
# 建設業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H26.1~3	20.8	37.5	▲ 8.7	4.2	▲ 4.4	4.2
4~6	20.8	62.5	▲ 8.3	4.2	▲ 4.3	20.8
7~9	▲ 4.2	54.2	▲ 12.5	▲ 4.2	13.0	0.0
10~12	▲ 16.7	54.2	▲ 16.7	4.2	13.1	▲ 12.5
H27.1~3	▲ 8.3	50.0	▲ 25.0	▲ 16.6	8.7	▲ 20.8
4~6	▲ 8.7	39.1	▲ 26.1	4.4	▲ 4.6	▲ 26.1
7~9	▲ 20.8	25.0	▲ 33.4	0.0	4.4	▲ 29.2
10~12	▲ 12.5	33.3	▲ 33.3	0.0	17.4	▲ 25.0
H28.1~3	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	0.0	4.4	▲ 8.3
4~6	▲ 21.8	12.5	▲ 20.9	▲ 8.3	9.1	▲ 25.0
7~9	0.0	20.9	▲ 33.3	▲ 8.4	▲ 18.2	▲ 12.5
10~12	▲ 16.7	12.5	▲ 8.3	4.2	▲ 8.7	▲ 8.3
H29.1~3	▲ 29.1	25.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 29.2
4~6見通し	▲ 4.4	4.4	▲ 21.8	▲ 17.4	▲ 9.5	▲ 8.7

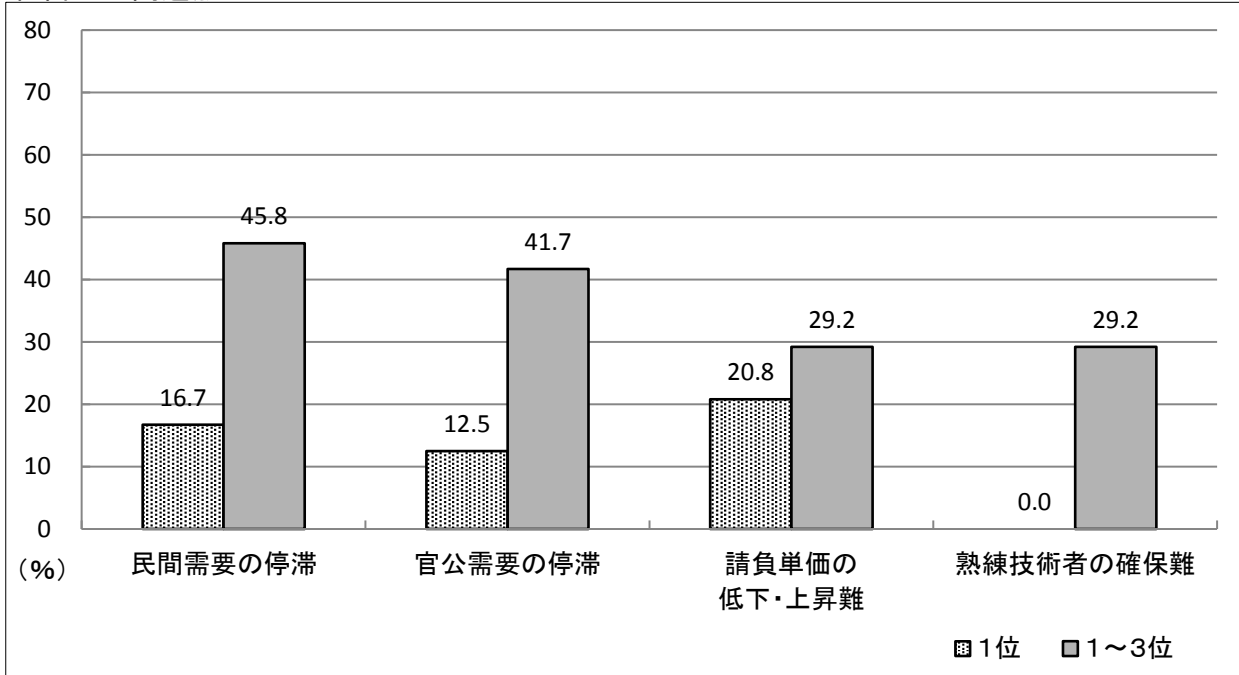


## 新規設備投資





## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・工事の積算単価が実勢価格と合わないため赤字になっている。件数も少なく利益の出しようがない。
- ・年度末の集中的な発注（民間、官庁）が例年になく極端に多く、人手不足に直面している。しかし、次年度の落ち込みを計算して様子を見ている取引先も多い。

## 建設業の景況

福井県内における平成28年度（28年4月～29年3月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,384億42百万円の前年同期比16.2%増、発注件数は同3,665件の同7.0%増となり、発注額、件数ともに前年度を上回っている。これを主な発注者別でみると、国家関連工事で170億15百万円の同17.9%増、独立行政法人等で307億4百万円の同197.1%増となったものの、主力の市町村関連工事（406億54百万円の同5.4%減）や、県関連工事（452億97百万円の同5.4%減）などでは前年度実績を下回っている。また、住宅投資については、平成28年4月～29年2月までの11か月累計で、前年同期比3.8%増の3,384戸となった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比5.4%増の2,226戸、貸家が同1.0%増の1,083戸となっている。

こうした中で今回の景況調査をみると、季節要因もあってDI値6項目全てで悪化していることがわかる。ちなみに、各項目のDI値をみると、売上高（前期▲16.7→今期▲29.1）、仕入単価（逆指数）が前期12.5→今期25.0、採算が前期▲8.3→今期▲37.5、資金繰りが前期4.2→今期▲25.0、従業員数が前期▲8.7→今期▲9.1、業況が前期▲8.3→今期▲29.2となっている。ただ、先行き（H29年4～6月期）については、人手不足から従業員数を除き残り5項目が改善予測となっている。

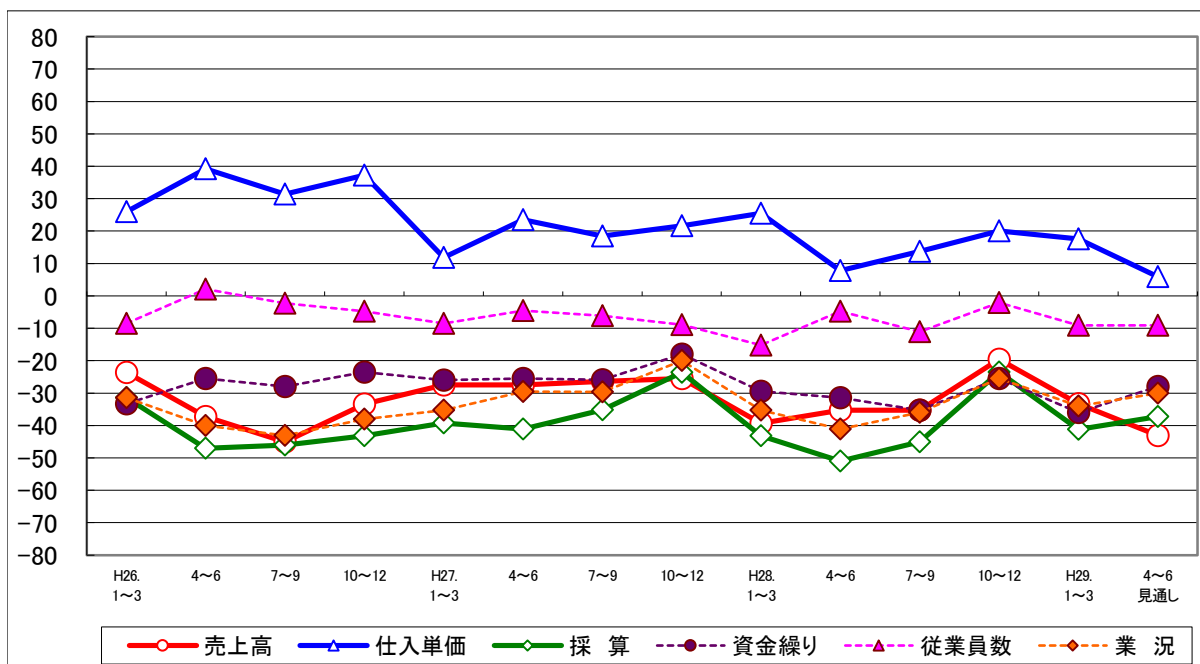
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画した企業25.0%に対し実施した企業が20.8%にとどまったものの、他業種に比較すれば高い。ただ、先行き（H29年4～6月期）については投資計画を持つ企業が12.5%にとどまり、投資マインドはやや落ちることが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「民間需要の停滞」（1位に挙げた企業16.7%、1位～3位までに挙げた企業45.8%）や「官公需要の停滞」（1位に挙げた企業12.5%、1位～3位までに挙げた企業41.7%）への指摘が目立っている。また、個別の見解として「工事の積算単価が実勢価格と合わないため赤字になっている」、「年度末の集中的な発注（民間、官庁）が例年になく極端に多く、人手不足に直面している」などの声が聞かれた。

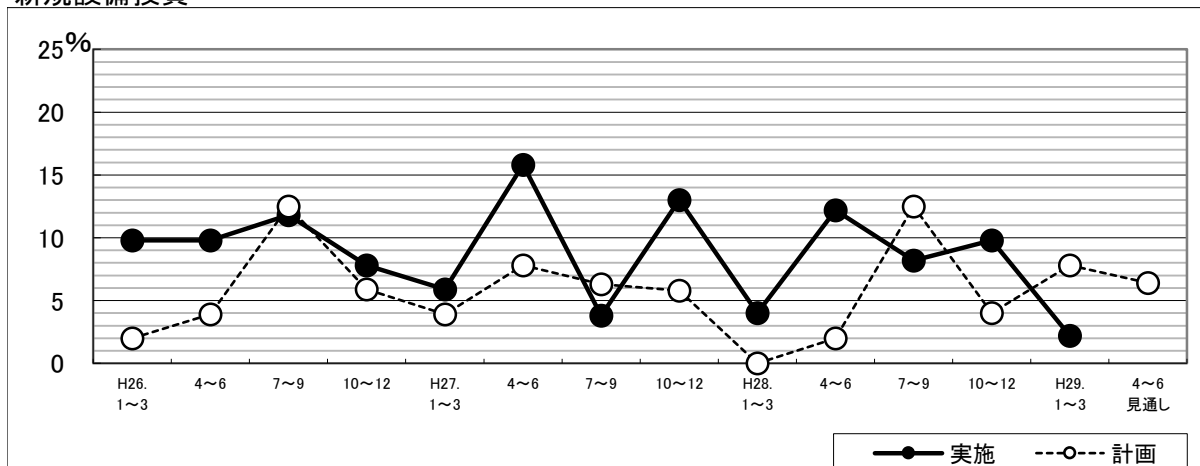
## 小売業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

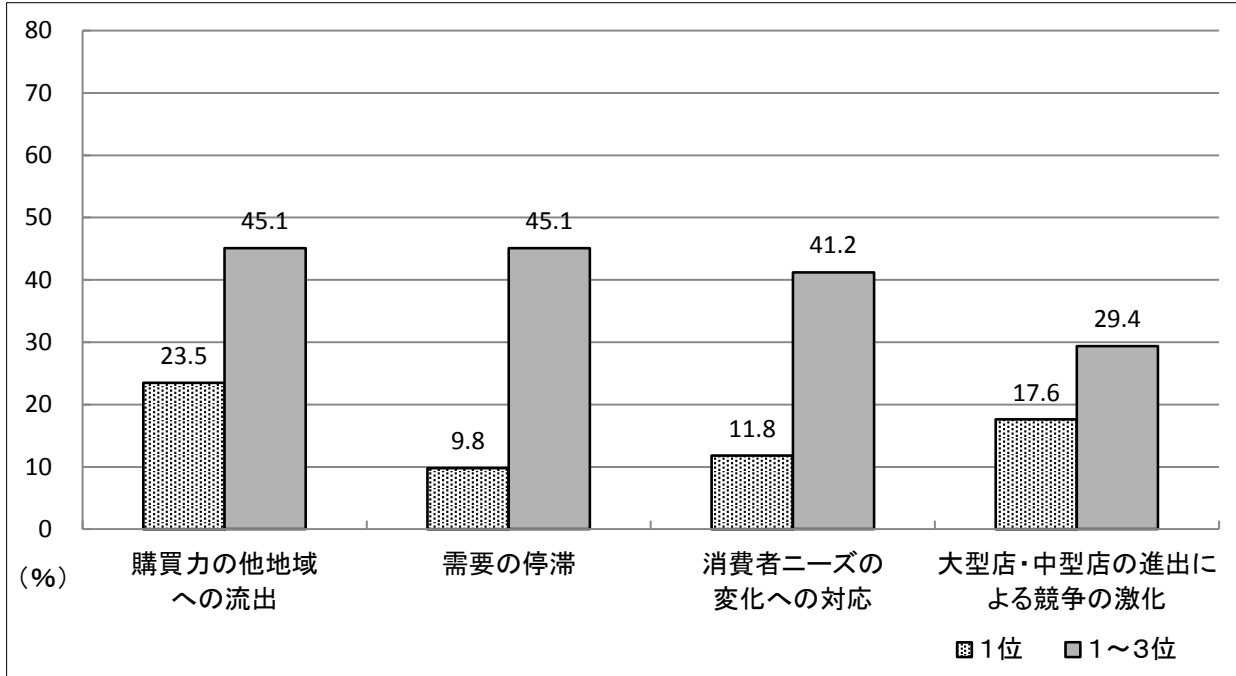
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H26.1~3	▲ 23.6	26.0	▲ 31.4	▲ 33.3	▲ 8.5	▲ 31.4
4~6	▲ 37.3	39.2	▲ 47.0	▲ 25.5	2.1	▲ 40.0
7~9	▲ 45.1	31.4	▲ 46.0	▲ 28.0	▲ 2.3	▲ 43.1
10~12	▲ 33.4	37.2	▲ 43.2	▲ 23.5	▲ 4.7	▲ 38.0
H27.1~3	▲ 27.5	11.8	▲ 39.2	▲ 26.0	▲ 8.5	▲ 35.3
4~6	▲ 27.5	23.5	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 4.6	▲ 29.5
7~9	▲ 26.4	18.5	▲ 35.2	▲ 25.9	▲ 6.1	▲ 29.6
10~12	▲ 25.5	21.6	▲ 23.6	▲ 18.0	▲ 8.9	▲ 20.0
H28.1~3	▲ 39.3	25.5	▲ 43.2	▲ 29.4	▲ 15.2	▲ 35.3
4~6	▲ 35.3	7.8	▲ 51.0	▲ 31.4	▲ 4.7	▲ 41.1
7~9	▲ 35.3	13.7	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 11.1	▲ 36.0
10~12	▲ 19.6	20.0	▲ 23.5	▲ 25.5	▲ 2.1	▲ 25.5
H29.1~3	▲ 33.3	17.6	▲ 41.2	▲ 36.0	▲ 9.1	▲ 34.0
4~6見通し	▲ 43.1	5.9	▲ 37.3	▲ 28.0	▲ 9.1	▲ 30.0



## 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・競合店の地域進出により売上減少が予想される。新たな対策と体質改善が急務である。
- ・大型店の出店で灯油単価が下がり、そちらに顧客が流れるので販売数量が落ち込んでいる。

## 小売業の景況

最近の小売商況をみると、大型店（百貨店+スーパー、既存店ベース）では、衣料品の動きが鈍いものの、飲食料品に動きがみられることから緩やかに回復している。ちなみに、近畿経済産業局が公表する大型店売上高（百貨店+スーパー、全店ベース）の状況は、1月が72億360百万円の前年同月比0.4%増、2月が57億79百万円の同1.7%減であった。そのほか、コンビニエンスストア、ドラッグストアなどの動きは良く堅調を維持しているほか、家電販売なども白物家電等に動きがみられることから持ち直しの動きがみられ、総じて見れば県内小売商況は底堅い動きとなっている。

しかし、今回の景況調査では、季節要因もあって景況感を示すDI値6項目中、仕入単価（逆指数）を除く5項目で悪化傾向となった。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲19.6→今期▲33.3、仕入単価（逆指数）が前期20.0→今期17.6、採算が前期▲23.5→今期▲41.2、資金繰りが前期▲25.5→今期▲36.0、従業員数が前期▲2.1→▲9.1、業況が前期▲25.5→今期▲34.0となっている。また、先行き（H29年4-6月期）については、売上高で悪化予測となったものの、仕入単価（逆指数）、採算、資金繰り、業況は改善予測、従業員数は横ばいとなっている。

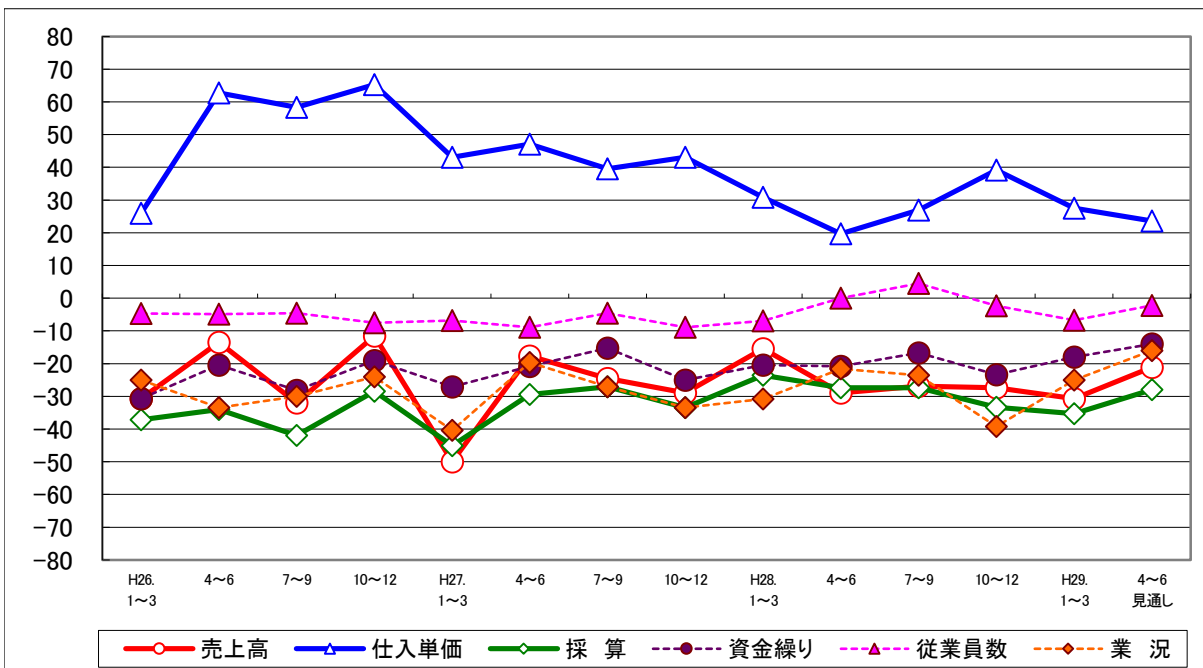
一方、新規設備投資の実施状況については、今期、計画の7.8%に対し実施が2.2%と低調なものとなった。先行き（H29年4-6月期）についても、投資を考える企業は6.4%にとどまり、企業の投資意欲は精彩を欠く展開が見込まれる。

最後に、経営上の問題点については、「購買力の他地域への流出」（1位に挙げた企業23.5%、1位～3位までに挙げた企業45.1%）への指摘が最も多く、次いで「需要の停滞」（1位に挙げた企業9.8%、1位～3位までに挙げた企業45.1%）が続いている。そのほか、個別の見解として「競合店の地域進出により売上減少が予想される」、「大型店の出店で灯油単価が下がり、そちらに顧客が流れるので販売数量が落ち込んでいる」などの声が聞かれた。

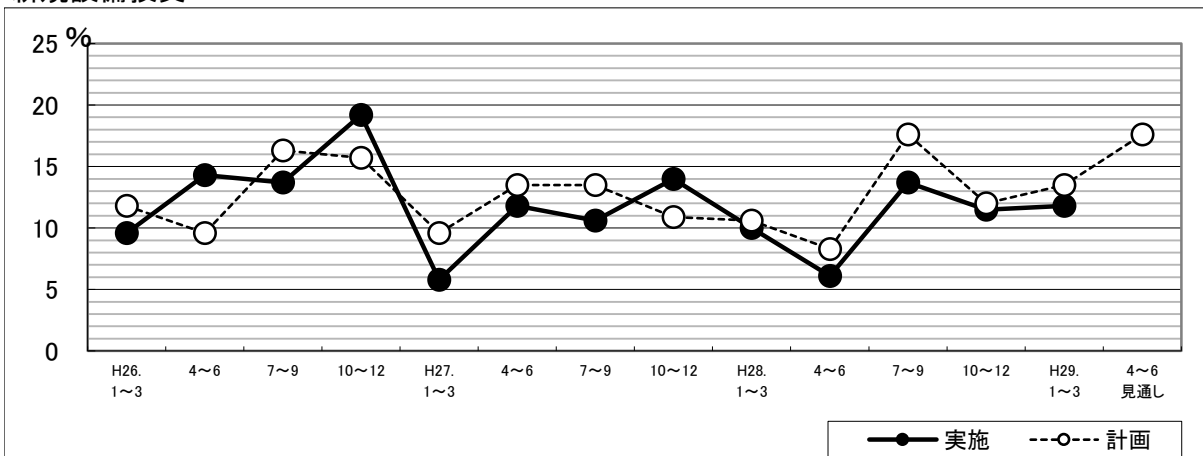
## サービス業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

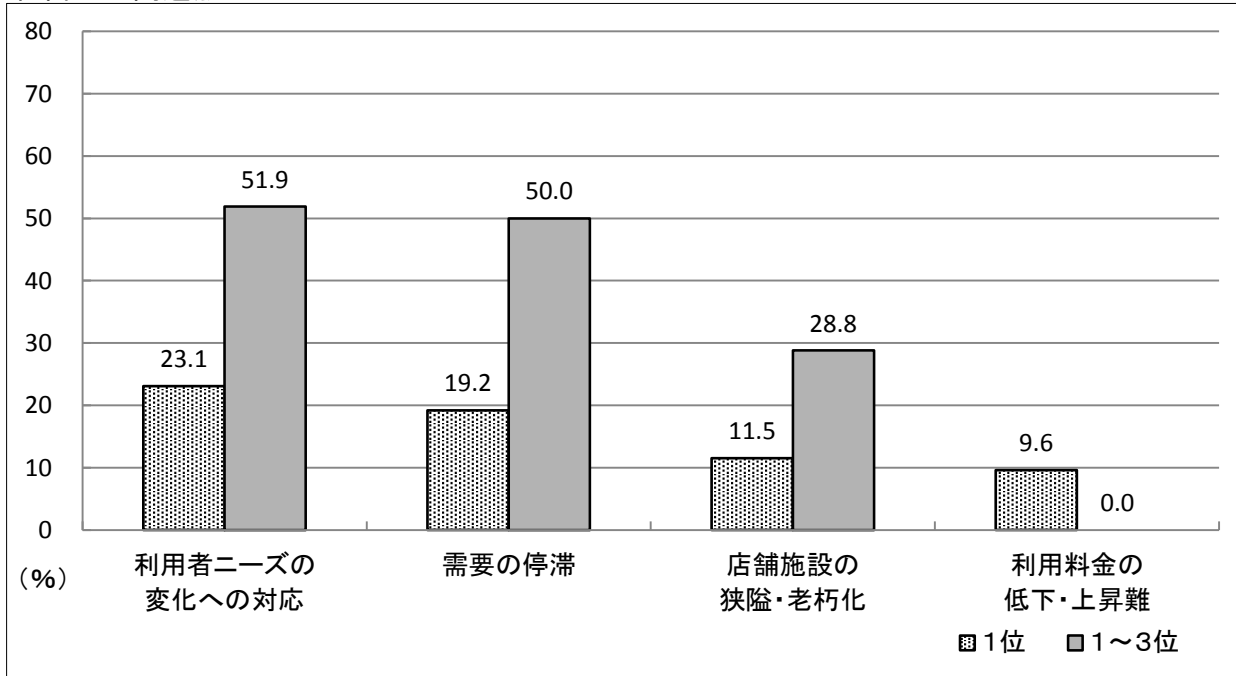
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H26.1~3	▲ 30.7	26.0	▲ 37.2	▲ 30.7	▲ 4.7	▲ 25.0
4~6	▲ 13.5	62.7	▲ 34.0	▲ 20.4	▲ 4.9	▲ 33.4
7~9	▲ 32.0	58.3	▲ 42.0	▲ 28.2	▲ 4.6	▲ 30.0
10~12	▲ 11.5	65.3	▲ 28.5	▲ 19.1	▲ 7.5	▲ 24.0
H27.1~3	▲ 50.0	43.1	▲ 45.1	▲ 27.1	▲ 6.8	▲ 40.4
4~6	▲ 17.7	47.1	▲ 29.4	▲ 20.8	▲ 8.9	▲ 19.6
7~9	▲ 24.5	39.6	▲ 27.1	▲ 15.2	▲ 4.6	▲ 27.1
10~12	▲ 28.9	43.1	▲ 33.4	▲ 25.0	▲ 8.9	▲ 33.4
H28.1~3	▲ 15.4	30.8	▲ 23.6	▲ 20.4	▲ 6.9	▲ 30.8
4~6	▲ 28.9	19.7	▲ 27.4	▲ 20.8	0.0	▲ 21.6
7~9	▲ 26.9	26.9	▲ 27.4	▲ 16.7	4.5	▲ 23.6
10~12	▲ 27.4	39.2	▲ 33.3	▲ 23.4	▲ 2.3	▲ 39.2
H29.1~3	▲ 30.7	27.5	▲ 35.3	▲ 18.0	▲ 6.7	▲ 25.0
4~6見通し	▲ 21.1	23.6	▲ 28.0	▲ 14.0	▲ 2.2	▲ 16.0



## 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・国体を来年に控え、スポーツ大会の予約が増えた。北陸新幹線に関しては、前年より落ち着いた。
- ・人口減少による顧客減少、顧客の老齢化。

## サービス業の景況






総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国における平成29年1月のサービス関連産業売上高は29.4兆円で前年同月比1.8%増と、3か月連続の増加となった。産業大分類別の動向をみると、増加した産業は「教育、学習支援業」、「サービス業（他に分類されないもの）」など7産業。減少した産業は「生活関連サービス業、娯楽業」、「宿泊業、飲食サービス業」などであった。また、サービス産業の従業者数は、3,002万人。前年同月比0.4%の増加となっており、増加した産業は「情報通信業」、「学術研究、専門・技術サービス業」など5産業、減少した産業は「教育、学習支援業」、「生活関連サービス業、娯楽業」など3産業であった。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中3項目が改善、3項目が悪化となっている。ちなみに、項目別では、売上高が前期▲27.4→今期▲30.7、仕入単価（逆指数）が前期39.2→今期27.5、採算が前期▲33.3→今期▲35.3、資金繰りが前期▲23.4→今期▲18.0、従業員数が前期▲2.3→今期▲6.7、業況が前期▲39.2→今期▲25.0となっている。こうした状況から、県内のサービス業では、仕入単価に改善がみられ業況も持ち直しへの期待があるものの、足元、売上高の低下から採算が悪化する中、なんとか資金繰りによって凌いでいる現実がうかがえる。また、先行き（H29年4-6月期）については、概ね改善傾向で推移することが予想される。

一方、新規設備投資については、計画13.5%に対し実施が11.8%にとどまったものの、先行き（H29年4-6月期）については17.6%の企業で何らかの設備投資を計画しているなど、投資マインドは底堅く推移することが期待される。

最後に、経営上の問題点については、「利用者ニーズの変化への対応」（1位に挙げた企業23.1%、1位～3位までに挙げた企業51.9%）が最も多い。また、「需要の停滞」への指摘も比較的多く、（1位に挙げた企業19.2%、1位～3位までに挙げた企業50.0%）を占めている。そのほか、個別企業の見解としては「人口減少による顧客減少、顧客の老齢化」といった声もあるが、その半面、「国体を来年に控え、スポーツ大会の予約が増えた」などの明るい声も聞かれた。

全国・福井景気動向 平成29年1月～3月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 27.5	23.1	▲ 28.6	▲ 18.0	▲ 5.4	▲ 26.8
	製造業						
	DI値	▲ 19.2	27.7	▲ 21.8	▲ 13.2	▲ 4.5	▲ 18.3
	建設業						
	DI値	▲ 17.8	27.0	▲ 19.9	▲ 10.9	▲ 6.3	▲ 15.8
	小売業						
	DI値	▲ 38.9	15.5	▲ 37.6	▲ 23.8	▲ 3.9	▲ 39.5
福井	サービス業						
	DI値	▲ 27.5	24.9	▲ 29.0	▲ 19.3	▲ 6.8	▲ 26.5
	全体						
	DI値	▲ 31.1	21.7	▲ 33.5	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 27.0
	製造業						
	DI値	▲ 29.7	17.1	▲ 18.5	▲ 10.5	0.0	▲ 18.9
	建設業						
	DI値	▲ 29.1	25.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 29.2
小売業							
DI値	▲ 33.3	17.6	▲ 41.2	▲ 36.0	▲ 9.1	▲ 34.0	
サービス業							
DI値	▲ 30.7	27.5	▲ 35.3	▲ 18.0	▲ 6.7	▲ 25.0	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

